

越谷に家康の御殿があった！

NPO 法人・越谷市郷土研究会 加藤幸一

越谷市役所の北西にある御殿町は、昔、家康の御殿があったことから由来します。増林にあった「お茶屋御殿」（城之上か林泉寺かの2説あり）が、慶長9年（1604）に日光街道ができる前の奥州街道そばの現在の御殿町に移転してきました。当時の元荒川は図のように北向きに直角に流れていました。現在の元荒川は大きく拡幅され、ゆるやかに曲流しています。また御殿町の中央に流れる葛西用水は昭和41年に新しくできたものです。御殿の位置は越ヶ谷御殿の説明板が立つ葛西用水の伏せ越し周辺や御殿町ふれあい公園にかけてと思われます。

明暦3年（1657）の明暦の大火（振袖火事）で江戸城が全焼すると、越ヶ谷御殿は江戸城二の丸の所に移築されました。そしてその後も仮の二の丸御殿として24年間使われました。

越谷御殿の跡地は、一部は家康の権現様から由来する名称「権現林」として残され、江戸幕府が滅びるまでお見捨て地として年貢除け地（検地帳の記載から除かれた土地）となりました。地元では「お林」と呼ばれました。

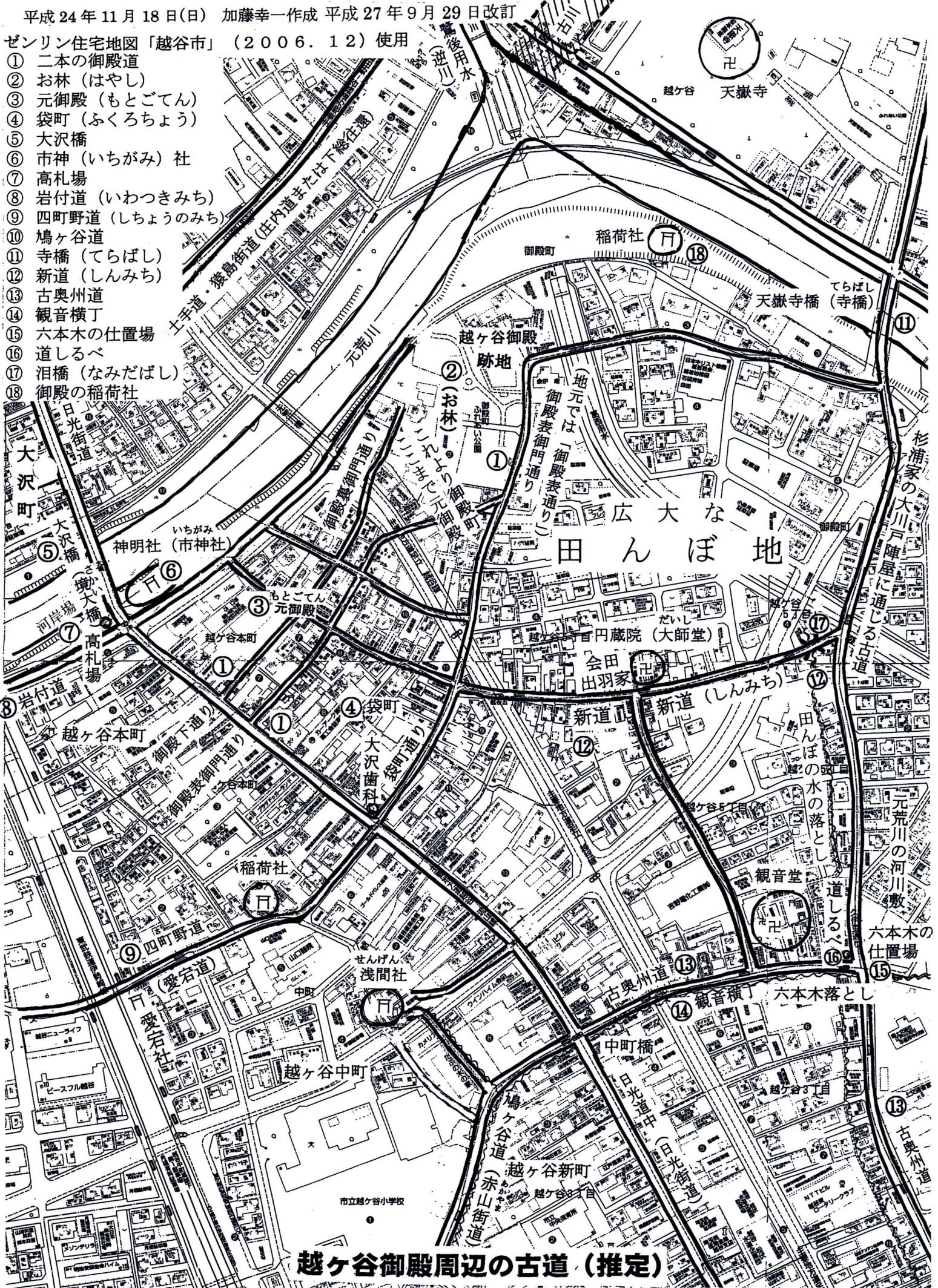
- ① 二本の^{ごてんみち}御殿道・日光街道から御殿に行く「御殿下通り」「表御門通り」の2本の道がありました。
- ② お^{はやし}林・・・江戸初期まであった御殿跡です。明暦の大火がきっかけで御殿は江戸城に移転されました。

今よりもこんもりとした高い土地で、御殿がなくなってからは林が茂り「権現林」とも呼ばれました。
- ③ ^{もとごてん}元御殿・・・かつては、この地まで御殿の敷地が続いていたと思われます。
- ④ ^{ふくろちょう}袋町・・・日常の生活に密着した職人の町でした。
- ⑤ ^{おおさわばし}大沢橋・・・正式名は「大橋」。昔は武蔵国と下総国（大沢側）との境から「境大橋」とも呼ばれました。
- ⑥ ^{いちがみしゃ}市神社・・・神明社とも呼ばれる越ヶ谷本町の鎮守です。二と七の六斎市が日光街道沿いに開かれました。
- ⑦ ^{こうさっぱ}高札場・・・大沢橋のたもとに、人々に知らせる立て札がありました。そばには河岸場もありました。
- ⑧ ^{いわつきみち}岩付道・・・岩槻に行く古道です。戦後できた現在の神明橋から西へ折れる道で、「南部領道」とも。
- ⑨ ^{しちやうのみち}四町野道・・・日光街道から四町野村、現在の宮本町に行く古道です。途中に愛宕社があったので愛宕道とも。
- ⑩ ^{はとがやみち}鳩ヶ谷道・・・鳩ヶ谷や川口の赤山陣屋に通じる古道です。地元では「鳩ヶ谷道」と呼ばれた赤山街道です。
- ⑪ ^{てらばし}寺橋・・・江戸時代は「天嶽寺橋」と呼ばれました。今は宮前橋と呼んでいます。
- ⑫ ^{しんみち}新道・・・会田出羽家によって文政年間に新しく作られた久伊豆神社に通じる古道です。
- ⑬ ^{こおうしゅうどう}古奥州道・・・日光街道が作られる前からあった江戸時代以前の奥州に行く古道です。観音横丁を通ります。
- ⑭ ^{かんのんよこちょう}観音横丁・・・沿道に観音堂があるので、このように呼ばれました。
- ⑮ ^{ろっほんぎ しおきば}六本木の仕置場・江戸時代、ここで見せしめや処刑が行われました。斬首した刀は元荒川で洗いました。
- ⑯ ^{みち}道しるべ・・・宝珠花、野田、大相模、吉川、成田、鳩ヶ谷、川口と書かれた道しるべがありました。
- ⑰ ^{なみだばし}泪橋・・・六本木の仕置場と関係していて、罪人とその家族が涙を流して別れを告げるところの橋でした。
- ⑱ ^{ごてん いなりしゃ}御殿の稲荷社・稲荷社は御殿ゆかりの神社で、今日のように川が改修されて川幅が大きく広がる前は

現在の河川敷あたりの位置にありました。明治20年頃まで三代将軍家光の書いた額がありましたが、盗難にあって今はその額はありません。

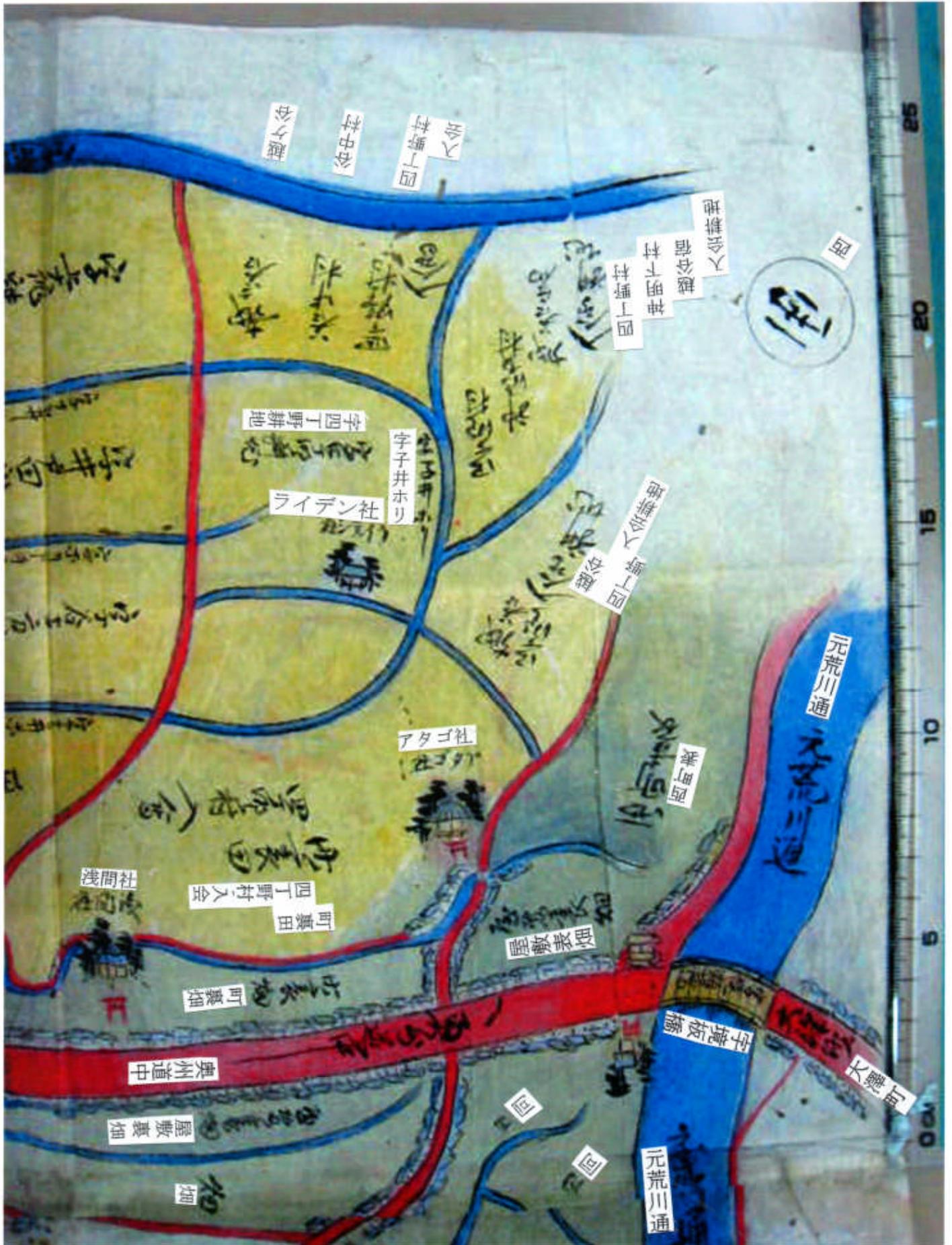
ゼンリン住宅地図「越谷市」(2006.12)使用

- ① 二本の御殿道
- ② お林 (はやし)
- ③ 元御殿 (もとごてん)
- ④ 袋町 (ふくろちょう)
- ⑤ 大沢橋
- ⑥ 市神 (いちがみ) 社
- ⑦ 高札場
- ⑧ 岩付道 (いわつきみち)
- ⑨ 四町野道 (しちょうのみち)
- ⑩ 鳩ヶ谷道
- ⑪ 寺橋 (てらばし)
- ⑫ 新道 (しんみち)
- ⑬ 古奥州道
- ⑭ 観音横丁
- ⑮ 六本木の仕置場
- ⑯ 道しるべ
- ⑰ 泪橋 (なみだばし)
- ⑱ 御殿の稲荷社



越ヶ谷御殿周辺の古道 (推定)





NPO法人 越谷市郷土研究会



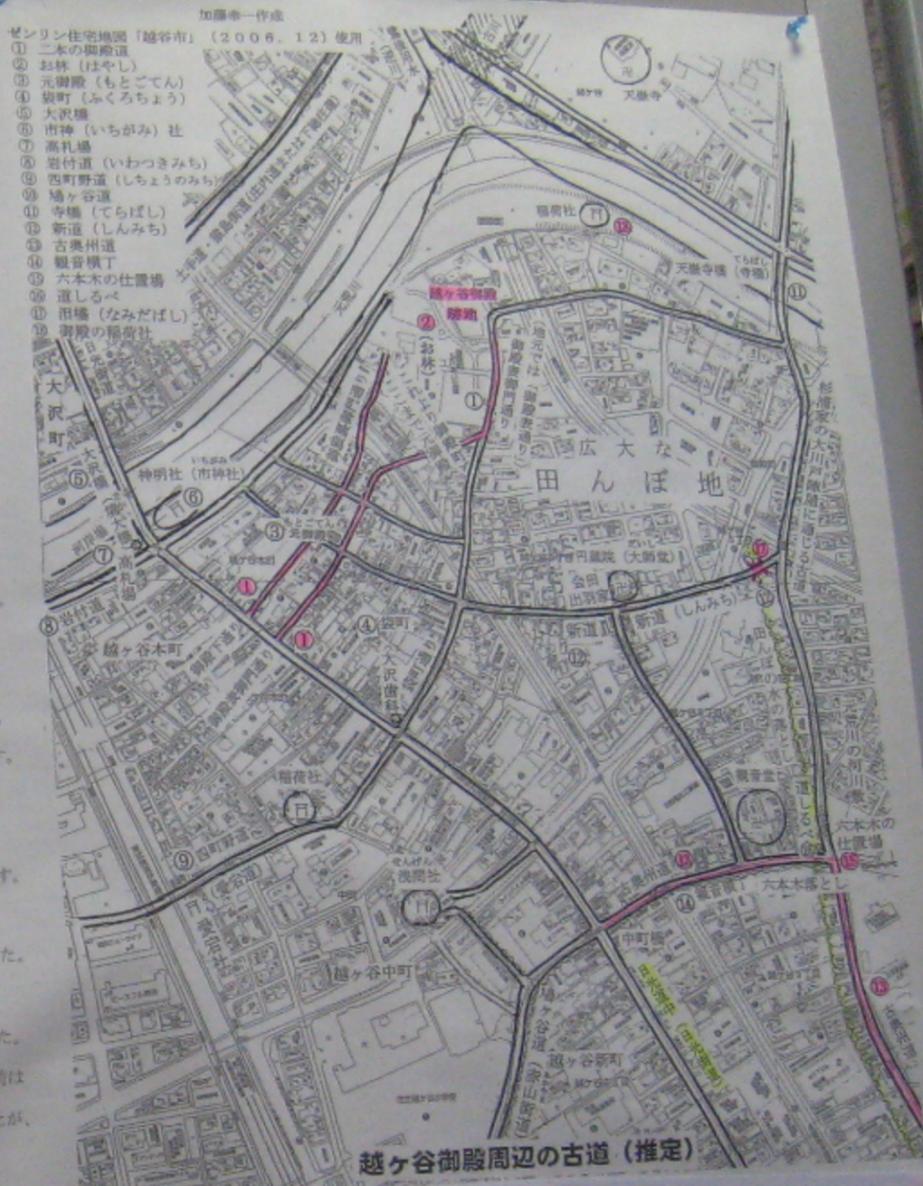
越谷に家康の御殿があった！

NPO法人・越谷市郷土研究会 加藤幸一

越谷市役所の北西にある御殿町は、昔、家康の御殿があったことから由来します。増林にあった「お茶屋御殿」(城之上か林泉寺かの2説あり)が、慶長9年(1604)に日光街道ができる前の奥州街道そばの現在の御殿町に移転してきました。当時の元荒川は図のように北向きに直角に流れていました。現在の元荒川は大きく拡張され、ゆるやかに曲流しています。また御殿町の中央に流れる葛西用水は昭和41年に新しくできたものです。御殿の位置は越ヶ谷御殿の説明板が立つ葛西用水の伏せ越し周辺や御殿町ふれあい公園にかけてと思われます。明暦3年(1657)の明暦の大火(阪地火事)で江戸城が全焼すると、越ヶ谷御殿は江戸城二の丸の所に移築されました。そしてその後も仮の二の丸御殿として24年間使われました。

越谷御殿の跡地は、一部は家康の権現様から由来する名称「権現林」として残され、江戸幕府が滅びるまでお見捨て地として年貢除け地(検地帳の記載から除かれた土地)となりました。地元では「お林」と呼ばれました。

- ① **二本の御殿道**・日光街道から御殿に行く「御殿下通り」「表御門通り」の2本の道がありました。
- ② **お林**・・・江戸初期まであった御殿跡です。明暦の大火がきっかけで御殿は江戸城に移転されました。今よりもこんもりとした高い土地で、御殿がなくなってからは林が茂り「権現林」とも呼ばれました。
- ③ **元御殿**・・・かつては、この地まで御殿の敷地が続いていたと思われます。
- ④ **袋町**・・・日常の生活に密着した職人の町でした。
- ⑤ **大沢橋**・・・正式名は「大橋」。昔は武蔵国と下総国(大沢側)との境から「境大橋」とも呼ばれました。
- ⑥ **清神社**・・・神明社とも呼ばれる越ヶ谷本町の鎮守です。二と七の六斎市が日光街道沿いに開かれました。
- ⑦ **高札場**・・・大沢橋のたもとに、人々に知らせる立て札がありました。そばには河岸場もありました。
- ⑧ **岩付道**・・・岩欄に行く古道です。戦後できた現在の神明橋から西へ折れる道で、「南部領道」とも。
- ⑨ **四町野道**・・・日光街道から四町野村、現在の宮本町に行く古道です。途中に愛宕社があったので愛宕道とも。
- ⑩ **鳩ヶ谷道**・・・鳩ヶ谷や川口の赤山陣屋に通じる古道です。地元では「鳩ヶ谷道」と呼ばれた赤山街道です。
- ⑪ **寺橋**・・・江戸時代は「天徳寺橋」と呼ばれました。今は宮前橋と呼んでいます。
- ⑫ **新道**・・・会田出羽家によって文政年間新しく作られた久伊豆神社に通じる古道です。
- ⑬ **古奥州道**・・・日光街道が作られる前からあった江戸時代以前の奥州に行く古道です。観音橋丁を通ります。
- ⑭ **観音橋丁**・・・舟道に観音堂があるので、このように呼ばれました。
- ⑮ **六本木の仕置場**・・・江戸時代、ここで見せしめや処刑が行われました。斬首した刀は元荒川で洗いました。
- ⑯ **道しるべ**・・・宝珠花、野田、大相模、吉川、成田、鳩ヶ谷、川口と書かれた道しるべがありました。
- ⑰ **稲橋**・・・六本木の仕置場と関係していて、罪人とその家族が涙を流して別れを告げるところの橋でした。
- ⑱ **御殿の稲荷社**・・・稲荷社は御殿ゆかりの神社で、今日のように川が改修されて川幅が大きく広がる前は現在の河川敷あたりの位置にありました。明治20年頃まで三代将軍家光の書いた額がありましたが、気難にあって今はその額はありません。

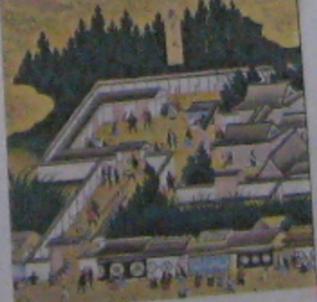


越谷に家康の御殿があった！

家康は、越ヶ谷御殿にはよく訪れて一週間も長きにわたって滞在しました。「越ヶ谷御殿」は家康にとってはとてもお気に入りの御殿でした。現在も「御殿町」という地名が残り、越谷市民の自慢の歴史遺産です。



家康は、越ヶ谷御殿にはよく訪れて一週間も長きにわたって滞在しました。「越ヶ谷御殿」は家康にとってはとてもお気に入りの御殿でした。現在も「御殿町」という地名が残り、越谷市民の自慢の歴史遺産です。



鴻巣御殿
越ヶ谷御殿もこのようにとても華やかであつたらう。

